



ラーメン店にしても、行列ができる店もあれば、ガランとして閑古鳥が鳴いているような店もあります。

最近、塾においても、ますます繁盛する所とそうでない所

との差が顕著になってきました。その要因は様々ですが、ここでは、今日からでもすぐに始められ、効果も現れやすい「伸びる塾の必須条件」について考えて見ましよう。

私が最近読んで感銘を受けた本の一冊に、『成長するものだけが生き残る』上原春男著(サンマーク出版)があります。上原氏は次世代エネルギー「海洋温度差発電」の世界的権威であるとともに、経営のコンサルタントとして有名な方です。その著書の中に「心地よさの追求」ということが書かれています。これは、何でもなさそうなことなのですが、伸びていく企業はその根底に「企業活動を通じて

消費者や世の中を心地よくしようという発想や理念を持っている」というのです。

確かに考えて見れば、伸びている塾の校舎内の清掃は、必ずといっていい程、行き届いています。また、元気で明るい挨拶も飛び交っています。

人は自然と「居心地のいい所」に集まるものです。まずは、お客様や生徒の立場に立って、自塾を見直し、見苦しいところはなにか点検しましょう。

次に、まわりの人に「感動」を与えられるぐらい素晴らしい自塾に生まれ変わるにはどうしたらいいかについて考え、実行しましょう。

ある塾では、校舎のまわり

や教室内をいつも花一杯にし、道行く人や、保護者、生徒の目を楽しませていきます。日々の手入れは大変ですが、世話をする側も、観る側ともに心地よく、その変化や美しさを楽しんでいきます。

このような一見何気ない行動の積み重ねが人の心を微妙に変化させ、人が集まる素地を作っていくのではないのでしょうか。

時は春、まずは自塾に携わる人々の心を明るくハッピーにする演出を何か1つでも考えて実行してみたいかがでしょうか。

つむぎニュース

〈発行所〉

都麦出版

京都市上京区京都御所北

http://

www.tsumugi.ne.jp

注目!

塾繁栄のヒントがいっぱい!

伸びている塾はここが違う!

都麦出版 代表 鳥居 実